

電池で動く4トローラー

酒井重工業はリチウムイオン電池で動くローラーを生産センター（埼玉県川越市）の開発本部で試作したことを明らかにした。金属の車輪が付いた振動タンDEMローラーで、重量は4トクラスという。機能を見るのが目的で「商品化はまだ考えていない」（酒井一郎社長）。今後1〜2年以内に改良版の2号機ローラーを作り、電池やモーターの性能向上もにらみながら、さらに数年後を見据えて商品化の可能性を探る考えだ。

2026年3月期に売上高300億円（21年3月期実績は216億円）を目指す中期経営方針の中で、自社ローラーの二酸化炭素

酒井重工、試作重ね商品化探る

（CO₂）排出削減に化が進めば量産効果に向けた取り組みを掲げた。電動ローラーの研究もその一つだ。油圧シヨベルと同様、ローラーも現状ではリチウムイオン電池で電動化すると価格が2倍以上にはね上がる問題がある。ただ、乗用車やバスなどの電動

化が進めば量産効果により電池価格が下がり、電動ローラーの商品化に向けたハードルも低くなることが予想される。走行時間の向上も課題だ。ただ、中国の電気自動車（EV）では走行時間の問題をクリアするために電池を力セット交換式にするアイデアも出ており、この方法を採用する可能性もある。

坂道を上るためのパワーも重要。パワーを大きくするためモーターを大型にすると、さらに重量やコストをとられ、電池を小さくせざるを得ないシレンマが生じる。こうした課題を踏まえつつ、商品化の可能性を模索する。